

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3167332号
(U3167332)

(45) 発行日 平成23年4月14日(2011.4.14)

(24) 登録日 平成23年3月23日(2011.3.23)

(51) Int.Cl.

A 4 5 B 25/18 (2006.01)

F 1

A 4 5 B 25/18

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2011-585 (U2011-585)
(22) 出願日 平成23年2月4日(2011.2.4)(73) 実用新案権者 598052757
株式会社裕源
神奈川県厚木市中町三丁目3番地9号 ア
ーバンプラザビル4階
(74) 代理人 100082175
弁理士 高田 守
(74) 代理人 100106150
弁理士 高橋 英樹
(72) 考案者 謝 明達
神奈川県厚木市中町3-3-9 株式会社
裕源内

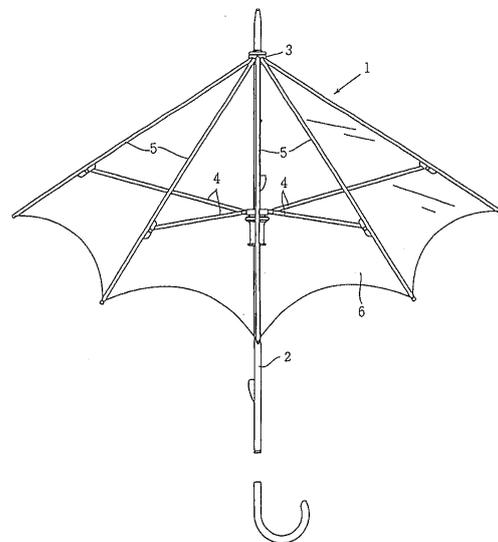
(54) 【考案の名称】 環境対応傘

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 少ない樹脂量で製造され、樹脂の廃棄量を低減し、環境維持の一助をなす環境対応傘を提供する。

【解決手段】 支軸2と、支軸2に対して放射状に連結された複数の親骨5と、複数の親骨5の間に張り渡された傘生地6とを備える。傘生地6は、低密度ポリエチレン(LDPE)又は直鎖状低密度ポリエチレン(L-LDPE)を基材とし、結合強度を高めるための改質材を含む機能性ポリエチレンシートで構成される。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

支軸と、
前記支軸に対して放射状に連結された複数の親骨と、
前記複数の親骨間に張り渡された傘生地とを備え、
前記傘生地は、直鎖状低密度ポリエチレンを基材とする機能性ポリエチレンシートであることを特徴とする環境対応傘。

【請求項 2】

前記機能性ポリエチレン樹脂シートは、直鎖状低密度ポリエチレン樹脂の結合強度を高める改質材を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の環境対応傘。

10

【請求項 3】

前記傘生地は、40 g 以上 60 g 以下であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の環境対応傘。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この考案は、環境対応傘に係り、特に、日常の雨具としての使用に適した環境対応傘に関する。

【背景技術】**【0002】**

我が国の雨傘市場では、かつて、一人当たりの平均所持本数は一本であったが、現在では、その平均所持本数は三本に上ると言われている。我が国の洋傘メーカーで構成する日本洋傘振興協議会の推計では、日本国内での洋傘の年間販売数量は一億本を越えると推定されている。また、総販売数に占める、所謂ビニール傘の割合は、9割と計算されている。好ましい状態ではないが、ビニール傘は、二乃至三回の使用の後に廃棄されてしまうのが実情である。

20

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

一般に、ビニール傘の生地としては、ポリオレフィン系樹脂が使われている。将来的には、傘生地が、自然分解される樹脂に転向されると予想されているが、現時点では、そのような樹脂のコストが極めて高く、早急にその転向を進めることは困難である。このため、ゴミの発生や無駄な資源消費を抑える観点より、ビニール傘に使用される傘生地の使用量を減らすことが望まれている。

30

【0004】

この考案は、上述のような要求を満たすためになされたもので、現状のビニール傘に比して少ない樹脂量で製造された傘生地を有し、樹脂の廃棄量を低減し、環境維持の一助をなすことのできる環境対応傘を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

第1の考案は、上記の目的を達成するため、環境対応傘であって、支軸と、前記支軸に対して放射状に連結された複数の親骨と、前記複数の親骨間に張り渡された傘生地とを備え、前記傘生地は、直鎖状低密度ポリエチレンを基材とする機能性ポリエチレン樹脂シートであることを特徴とする。

40

【0006】

また、第2の考案は、第1の考案において、前記機能性ポリエチレン樹脂シートは、直鎖状低密度ポリエチレンの結合強度を高める改質材を含むことを特徴とする。

【0007】

また、第3の考案は、第1又は第2の考案において、前記傘生地は、40 g 以上 60 g 以下であることを特徴とする。

50

【考案の効果】

【0008】

本考案によれば、ポリオレフィン樹脂のシートを傘生地とするビニール傘に比して、傘生地の樹脂量が少ない環境対応傘を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本考案の実施形態である環境対応傘の全体図である。

【考案を実施するための形態】

【0010】

実施の形態1 .

図1は、本考案の第1実施形態の環境対応傘1の全体図である。環境対応傘1は、支軸2を備えている。支軸2の上端部近傍には、環状の親骨取り付け部3が装着されている。また、支軸2の中央付近には、環状のスライド部材を介して、複数（本実施形態では8本）の受骨4の一端が連結されている。それらの受骨4は、支軸2の周りに、等間隔に、放射状に配置されており、上記一端は、スライド部材と共に支軸2に沿って移動することができる。

【0011】

受骨4の他端は、親骨5の中央付近に連結されている。親骨5は、受骨4と同じ数だけ備わっており、全ての受骨4は、それぞれ対応する親骨5に連結されている。親骨5の一端は、上述した親骨取り付け部3に連結されている。親骨5は、受骨4に連結されているスライド部分が支軸2に沿って移動するのに伴い、親骨取り付け部3を支点として放射状に開閉することができる。

【0012】

親骨5の間には、傘生地6が張り渡されている。傘生地6は、最も開かれた8本の親骨5に密着することができるように、八角錘の側面形状に似た形状に形成されている。この形状は、二等辺三角形に似た形状にカットされた生地を八枚張り合わせることで、或いは縫い合わせることで形成されている。傘生地6が有する八つの頂点には、それぞれ係止部材が固定されている。傘生地6は、それらの係止部材が親骨5の端部に装着されることで親骨5に固定されている。

【0013】

本実施形態において、傘生地6は、低密度ポリエチレン（LDPE）又は直鎖状低密度ポリエチレン（L-LDPE）を基材とする機能性ポリエチレン樹脂シートで形成されている。この機能性ポリエチレン樹脂シートは、LDPE又はL-LDPEに、結合強度を高めるための改質材を添加して形成されている。このため、本実施形態が用いる傘生地6は、LDPE又はL-LDPEのシートに比して高い強度を有している。

【0014】

ポリオレフィン樹脂のシートで傘生地6を形成する場合、必要な厚さは75 μ 程度であり、その重量は65g程度となる。これに対して、上記の機能性ポリエチレン樹脂シートによれば、必要十分な強度を確保しつつ、傘生地6の重量を、従来のポリオレフィン樹脂単体を用いる場合に比して重量で20～30%削減することができる。本実施形態では、具体的には、傘生地6の重量を40g以上60g以下の適当な値に設定している。このため、ポリオレフィンの傘生地を用いる全てのビニール傘を本実施形態の環境対応傘1に置き換えた場合、樹脂材料の消費量を約3割、具体的には、年間で5,800,000kg以上の樹脂消費量を削減することが可能である。

【符号の説明】

【0015】

- 1 環境対応傘
- 2 支軸
- 5 親骨
- 6 傘生地

10

20

30

40

50

【 図 1 】

